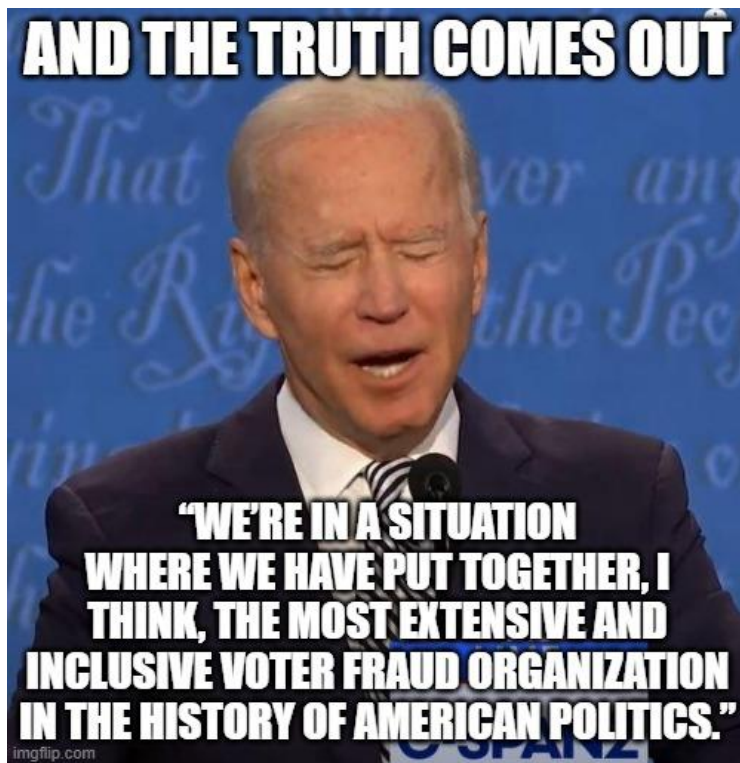


詐欺師ジョー・バイデンは国益のために逮捕・起訴・投獄  
されねばならない

SOTN

December 15, 2020



バイデンは選挙を盗んだだけでなく、それを認めた

彼が正直にポロリと言ってしまったと言われる上記の言葉がある：——

そして真理は顕われる

「我々が現在、立っているのは、  
アメリカの政治の歴史の中で、  
最も広範囲で包括的な、投票詐欺組織を、  
我々が作り出したという状況だと思う。」

「民主党の頭目として、職業的政治犯罪者ジョー・バイデンは、アメリカの歴史で

最大の、投票詐欺と選挙盗みの犯行者である。バイデンの就任演説でなく、投獄こそが、2020 大統領選挙の容認できる結果である。同様に、民主党は、国家の利益のために解散されなければならない。本質的に RICO（組織犯罪）レベルの犯罪組織であるものの首魁として、バイデンの死刑に値するものを避ける最上のチャンスは、アメリカ共和国の全面的転覆を計画している、彼の仲間の共産主義者たちの、すべての身元を明らかにすることであろう。彼らの多くはすでに、彼らの中国共産党との裏切りの癒着によって、互いに巻き込まれている。共同共謀者カマラ・ハリスもまた、手の込んだサイバー犯罪を含む、この高度に重大な選挙盗みに対し、責任を問われなければならない。これら二人の共産主義の手下が、カナリアのように歌っているときにのみ、トランプ大統領は、我々の間の無数のクーデタ計画者、危険な反逆者、敵である裏切り者どもを根絶することができる。

——情報アナリスト & 元米軍オフィサー

#### **SOTN 編集者注：**

バイデンの弁解をする者たちの多くは、バイデンは、8つの主要激戦州の特に6州で行われた、大規模な投票詐欺のことを、何も知らなかったと言って彼を弁護する。固い証拠によって明らかなのは、この前代未聞の詐欺は、バイデンを頭とする民主党によって犯された犯行である。そして、この選挙盗みは、民主党と民主党全国委員会によって、必死に隠ぺいされたものである以上、バイデンはこの進行中の隠ぺいに直接、責任があり、また彼の徹底的に腐敗した指導のもとに犯された、現実の選挙犯罪にも責任を問われる。

アメリカ合衆国は、南北戦争以来、最も深刻な憲法の危機に直面している。もしこの選挙破壊が、正当に、迅速に解決されなければ、それは第二の市民戦争へと崩壊していくだろう。

世界全体が、ジョー・バイデンとその共同候補カマラ・ハリスが、2020 アメリカ大統領選挙を、堂々とスチールしたのを目撃した。それは、そのために特別に形成され、高度に組織された、RICO レベルの犯罪企業によるものであった。

この民主党の経営する国際的犯罪シンジケートは、アメリカの最も巧妙な敵のある者たちと、緊密に協同して動いていた。連合王国の深層国家、共産党中国、それにイスラエルもまた民主党と癒着したが、これは多くの国際的 NGO が、New World Order グローバリスト陰謀団の規定の下に活動するのと同じことだった。

この米大統領選をスチールしようとする、膨大な、犯罪的陰謀の深さと幅のすごさは、この現在進行中の、アメリカ全土を覆う、犯罪の波に参加する、グローバリストの施設と国際的組織の、数によってのみ推し量ることができる。

たとえば、主流メディアの全体が——世界全体で——犯された無数の選挙犯罪においても、高度に統制された隠ぺい行為においても、一つの中軸的な共同陰謀団であることが判明した。実際、このような効果的な隠ぺいがなければ、このように透明な選挙盗みは、これまでの所、決して成功しなかったであろう。

### トランプは、相手失格で (by default) 勝っている

あらゆるアメリカ人が知っておかねばならないことは、この選挙盗みにつながる犯罪の度合いの深さによって、トランプ大統領はすでに不戦勝ちしている、ということである。

次のような反論できない結論を考えてみよ。これは現実には、アメリカ最高裁判所によって裁定された、決定された法から導かれたものである。

**「バイデン-ハリスの全国的な、州から州へと投票用紙をスチールする選挙詐欺の計画は、彼らが競争に勝つことを法的に禁じている。」**

(ソース:「トランプは不戦勝ちしている」 <http://stateofthenation.co/?p=35959>)

この 2020 選挙の、最終的で法的な結果の根拠そのものは **Fraud vitiates everything** (詐欺はすべてを無効にする) ということである。

言い換えると、バイデン-ハリス切符が、あらかじめ計画され組織された、全国的選挙をスチールする、詐欺のパターンを取った場合には、彼らは直ちに勝利の権利を喪失する、ということである。

——以下略

### [Greatchain 訳注]

この写真のバイデンが、どういう理由からか——痴呆によるものか、神が喋らせたのか——談話の途中で、うっかり本音をしゃべってしまったことが、かなり注目されているようだ。これは滑稽だが、一時の余興では済まされないだろう。どう展開するが待ちたいものである。

「彼ら」が、堂々と人を食うという習性をもっていることは、我々がここで何度か指摘している。たとえば「ホワイトヘルメット団」という、中東で展開された、堂々たる偽善集団があった。いろんな都市で行われた、ニセ旗テロ襲撃もそうであり、ウソがばれても、彼らは全く気にしていないようだ。バイデンのせりふもその一つかもしれない。

彼らの支配するメディアとはいえ、世界の主流メディアを相手にして、これだけの見え見えの詐欺を働き、ウソをつきながら、平然と我々を愚弄し続ける度胸は、すごいではないか！ これはいったい何者なのだろうか？ おそらくは、サイコパスと言われて、我々に想像のできない人種が、我々との地球を奴隷化しようとして、存在することは確かなようである。